

宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(10)

－平成30年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－

Issues in education for the First-Year Student at UTSUNOMIYA KYOWA
UNIV(10)

－ Class Reports and the results of a questionnaire survey －

松 田 勇 一

MATSUDA Yuichi

概要

本稿では、宇都宮共和大学における平成30年度の初年次教育科目「基礎ゼミ」の授業報告と、本科目を受講した新入生に対して行った意識調査の結果を示した。授業報告では、当該科目の目的、方法、概要を示した。意識調査では、大学生活、今後の勉強、基礎ゼミに大別し、各項目に関する質問とその回答結果を示した。

キーワード：初年次教育 基礎ゼミ 授業報告 意識調査

1 はじめに

本学では、平成21年度春学期より初年次教育として「コミュニケーション講座」が開講され、松田（2010、2011、2012、2013、2014、2015、2016）はその授業報告と学生に対して行った意識調査の結果を示した。また、平成28年度より、初年次教育科目として「基礎ゼミ」が開講され、松田（2017、2018）ではその授業報告と意識調査の結果を示した。本稿では、3年目を迎えた「基礎ゼミ」の授業報告と、本学における初年次教育の課題を提示することを目的とする。

2 授業概要

平成30年度の基礎ゼミは1年生の必修科目とし、大学生活を送るために必要なアカデミック・スキルを身に付けてもらうのが大きな役割である。本科目では、学生の出身校、性別等を考慮して6つのクラスを編成した。1クラスあたりの学生数は10～11名であり、各クラスに担当教員が1名配置された。また、秋学期にクラス再編を行い、ゼミ構成員、担当教員が替わるようにした。

2.1 目的

平成30年度の基礎ゼミの目的は、以下の通りである。

- (1) 大学での学び方、学生生活の送り方を学ぶ。

- (2) 2年次のゼミへ向けて、調査・研究の基礎を学ぶ。
- (3) 卒業後の人生に目を向け、学生時代の過ごし方について考える。
- (4) 週間日誌の作成を通して、自己管理能力、自立学習を身に付ける。
- (5) 作文を通して、基本的な書く能力を習得する。
- (6) 各種課題の口頭発表を通じて、プレゼンテーションの基礎を身に付ける。
- (7) 合同講義を通じて、教科書の内容をより深く理解し、アカデミック・スキルを身に付ける。

上記(1)～(6)は、前年度と同様だが、(7)は平成30年度において新たに設けた目標である。また、前年度掲げた「ドリルを通じた基礎学力の向上」は、平成30年度は除いた。

2.2 授業の方法と内容

平成30年度基礎ゼミは、受講者62名（日本人学生48名・留学生14名）を6クラスに分けた。各クラスには担当教員を配置し、授業時間、内容は6クラス全て統一した。そのため、毎回の授業前には、6人の担当教員が打ち合わせを行い、当日の流れや問題点などを話し合った。なお、秋学期にはクラスの再編を行った。

授業内容は、大きく2つに分けることができる。1つは初年次教育のためのテキスト（川延他編2011）を用いた回、もう1つは補助回である。平成28年度、29年度においては、補助回では基礎学力向上のために漢字・計算・公民の学習ドリルに取り組んだが、平成30年度においては合同講義、各種発表を行った。また、最終回は卒業研究発表会への参加とした。授業の具体的な内容は以下の通りである。

学期	回	内容
春 学 期	1	テキスト第1章「さあ、はじめよう」
	2	テキスト第2章「勉強のリズムを作ろう」
	3	テキスト第3章「大学で学ぶということ」
	4	合同講義①ノートテイキング（松田教員）
	5	テキスト第4章「困ったことはありませんか」
	6	合同講義②心の健康（小浜教員）
	7	テキスト第5章「大学はワンダーランド」
	8	合同講義③お金の使い方（今教員）
	9	テキスト第6章「自分を守る、他人を守る」
	10	テキスト第7章「キャンパスツアー」（合同講義④：西山教員）
	11	発表準備（6クラス合同PC教室にて）
	12	発表「キャンパス内のお気に入りの場所」（6クラス合同）
	13	合同講義⑤レポートの書き方（松田教員）

	14	テキスト第8章「生活プランをどう立てるか」
	15	合同講義⑥消費者カレッジ（学生委員会主催）
秋 学 期	16	クラス再編成・自己紹介・夏休みの課題発表
	17	テキスト第9章「卒業したらどうするか」
	18	合同講義⑦キャリアガイダンス（就職委員会主催）
	19	テキスト第10章「生活と人生のデザイン」
	20	発表（6クラス合同・夏休みの課題「私の○○場所」・1人1分）
	21	発表（6クラス合同・夏休みの課題「私の○○場所」・1人1分）
	22	テキスト第11章「研究テーマを考える」
		大学祭ポスター展示（夏休みの課題「私の○○場所」）
	23	合同講義⑧文献検索実習（石井教員）
	24	テキスト第12章「研究を進める」
	25	合同講義⑨オープンデータの使い方（宇都宮市主催）
	26	テキスト第13章「研究報告をまとめる」
	27	テキスト第14章「プレゼンテーションとレポート」 テキスト第15章「基礎ゼミを振り返って」
	28	最終発表「基礎ゼミで学んだこととこれからの研究テーマ」（6クラス合同・1人2分スピーチ）
	29	最終発表「基礎ゼミで学んだこととこれからの研究テーマ」（6クラス合同・1人2分スピーチ）
	30	卒業研究発表会聴講（4年生の卒業研究発表を聴講しコメントを書く）

また、平成29年度と同様、課題として週間日誌と作文を課し、2週間に1度指定の用紙に記入させて提出させた。週間日誌、作文、各種ドリルは、2穴バインダーにポートフォリオとして学生に管理させた。

2.3 成績評価

ポートフォリオ（週間日誌・作文）40%、テキストのワークシート30%、発表30%とした。なお、欠席は総合点からマイナスするという形（－欠席回数×4点）で成績評価に取り入れた。単位取得の為に各発表は必須とし、単位認定は出席2/3以上の者を対象とした。また、週間日誌と作文はクラス担当教員が添削、確認を行ったが、採点の基準は「全て記入している→2点」、「記入しているが未記入の部分がある→1点」、「殆ど記入していない、全く記入していない→0点」とした。

3 意識調査

3.1 調査概要

調査は、平成30年度基礎ゼミの春学期、秋学期の共に最終回において実施した。調査した学生数は、春学期は日本人学生45名、留学生13名、秋学期は日本人学生45名、留学生12名であった。調査した学生数の違いは、出欠の違いによるものである。

調査方法は、日本語で調査票を作成し、選択技法、5段階評定法、自由回答法で回答させた。調査票は、大学生活、勉強、基礎ゼミに関する部分に分かれている。

3.2 結果と考察

以下、質問と共に集計結果を示す。

3.2.1 大学生活について

1) 宇都宮共和大学に、1週間にどのくらい来ますか？

表 1

学期	春				秋			
登校日数	0～1 日	2～3 日	4～6 日	毎日	0～1 日	2～3 日	4～6 日	毎日
日本人	0(0.0)	0(0.0)	42(93.3)	3(6.7)	0(0.0)	0(0.0)	40(90.9)	4(9.1)
留学生	0(0.0)	0(0.0)	13(100)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	12(100)	0(0.0)
全体	0(0.00)	0(0.0)	55(94.8)	3(5.2)	0(0.00)	0(0.0)	52(92.9)	4(7.1)

秋学期日本人欠損値＝1

2) 宇都宮共和大学では、授業中以外は主にどこにいますか。よくいる場所を3つ選んでください。

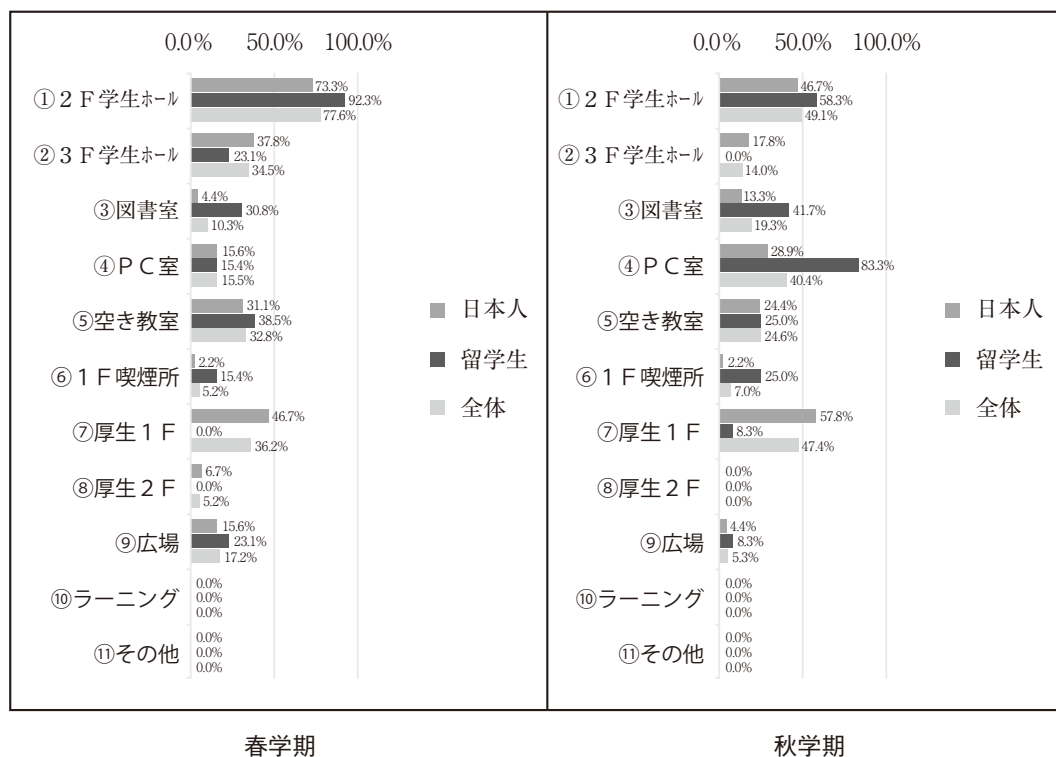


図 1

3) 宇都宮共和大学では、授業中以外は主に何をしていますか。よくしていることを3つ選んでください。

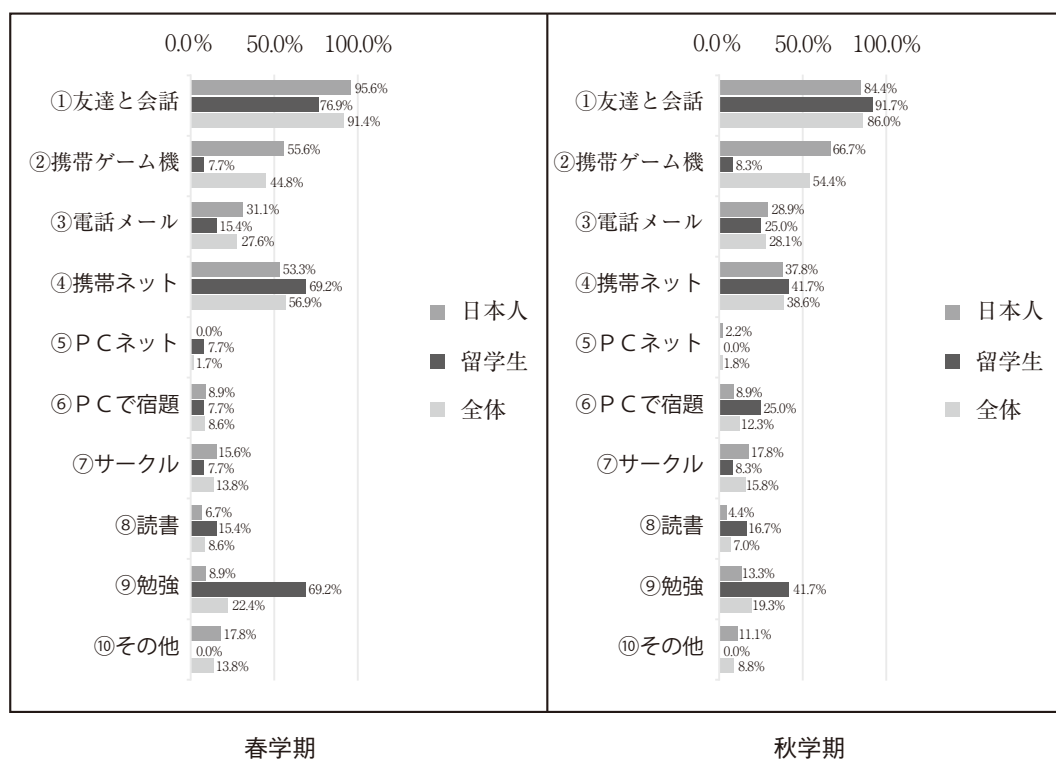


図 2

4) 宇都宮共和大学での学生生活の中で、楽しいと思うことは何ですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

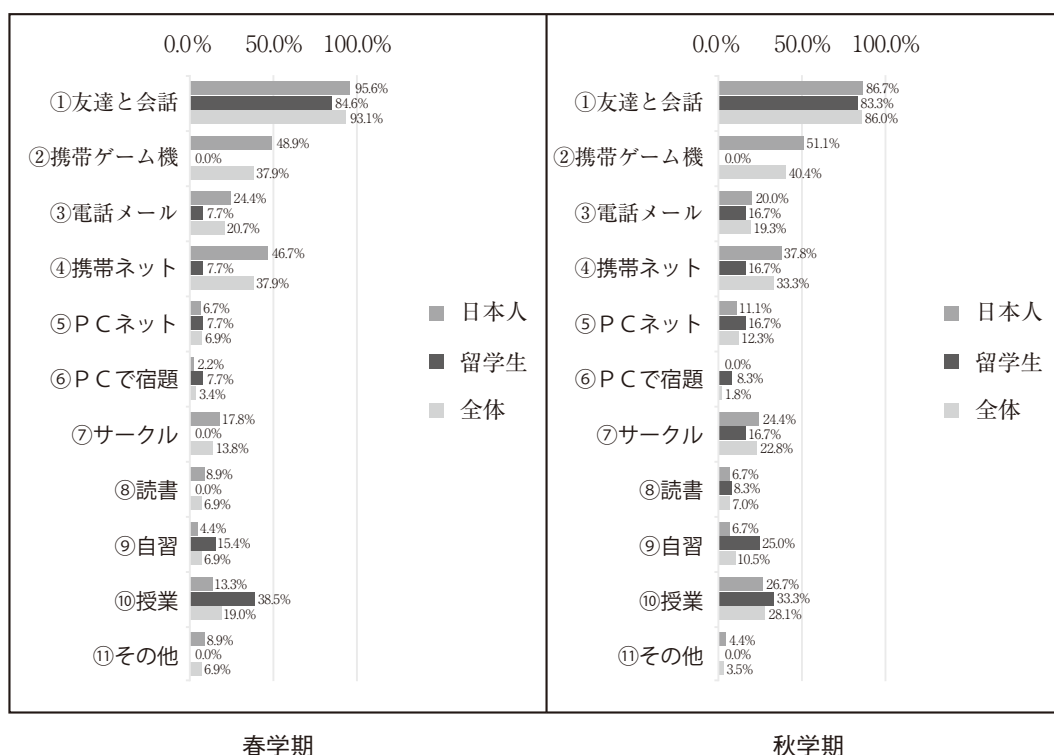


図 3

5) あなたの今の生活の中で、重要だと思うことは何ですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

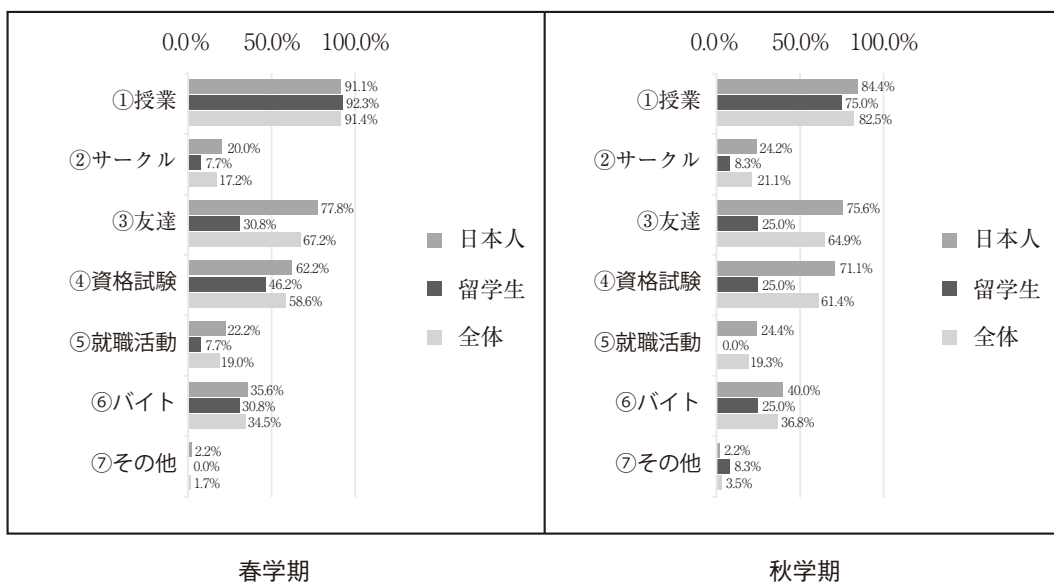


図 4

6) 宇都宮共和大学での学生生活の中で、困っていることがありますか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

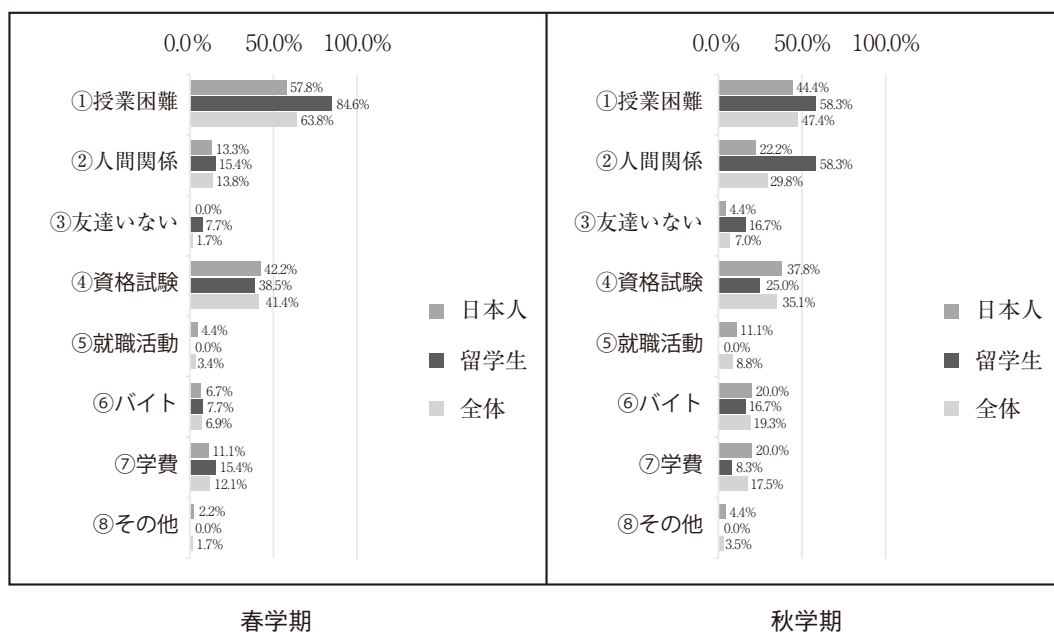


図 5

7) 宇都宮共和大学に入って、友達がどの位できましたか？

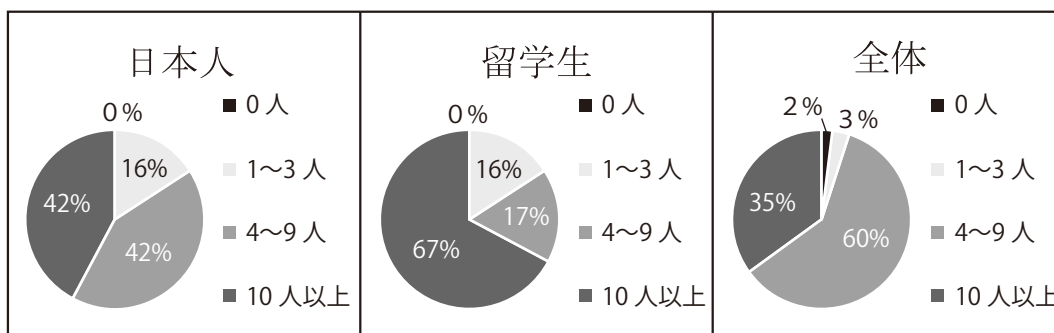
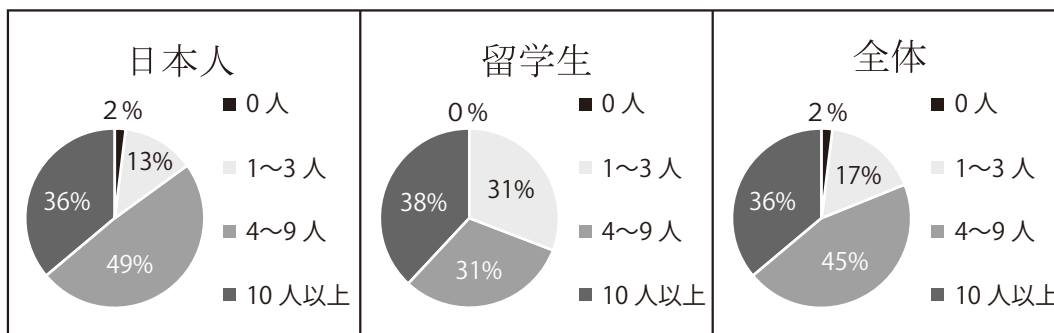
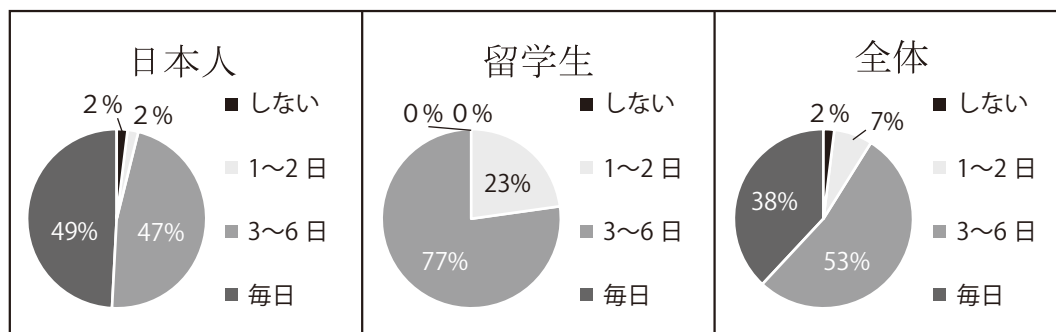
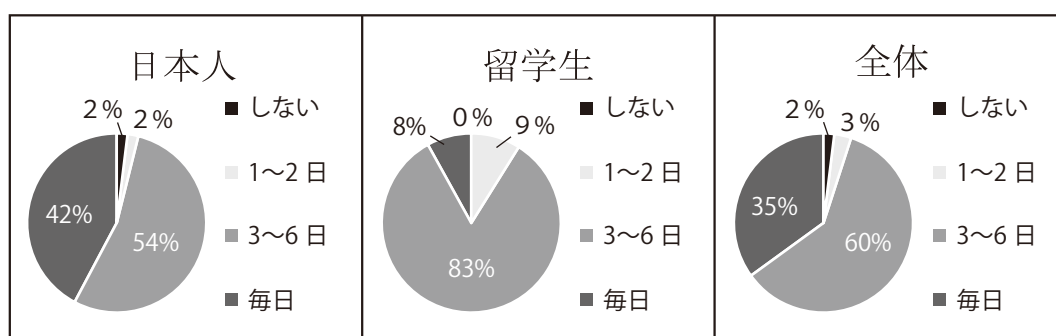


図 6

8) 宇都宮共和大学の友達と1週間にどのくらい話をしますか？



春学期

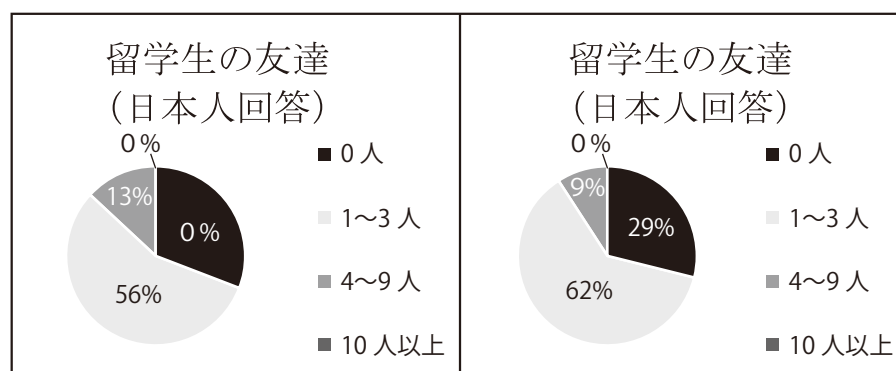


秋学期

図7

< 9) 10) は日本人学生への質問です >

9) 宇都宮共和大学に入って、留学生の友達がどの位できましたか？



春学期

秋学期

図8

10) 宇都宮共和大学の留学生と1週間にどのくらい話をしますか？

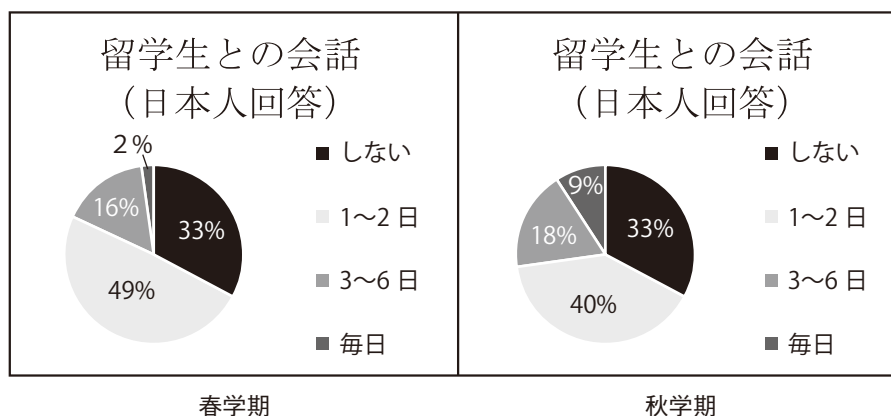


図9

< 11) 12) は留学生への質問です >

11) 宇都宮共和大学に入って、日本人の友達がどの位できましたか？

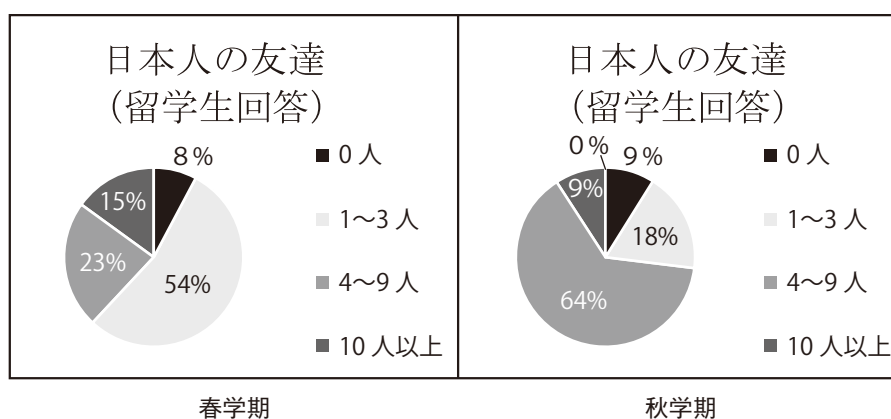


図10

12) 宇都宮共和大学の日本人学生と1週間にどのくらい話をしますか？

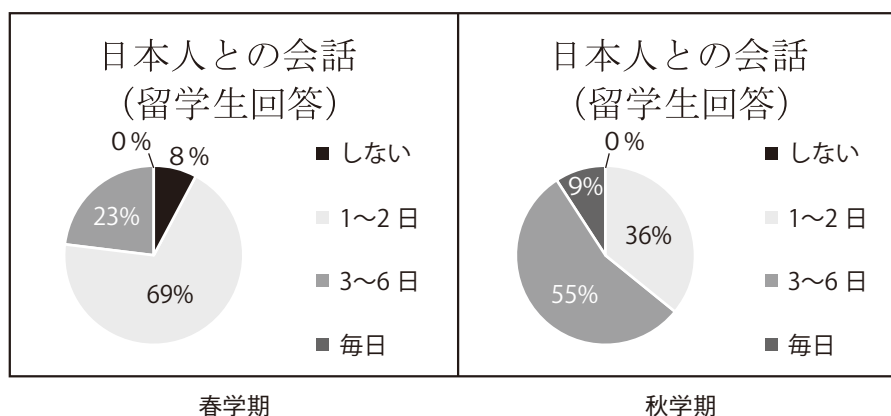


図11

質問1)は、通学の回数であるが春学期、秋学期共に9割以上の学生が週4～6日あるいは毎日と回答した。質問2)は、学生の居場所であるが、全体では例年同様に「2F学生ホール」が最も多かったが、春学期全体77.6%から秋学期全体49.1%と減少している。また、「3F学生ホール」も春学期から秋学期にかけて減少しており、「学生ホール」からの居場所の移動が見られる。逆に割合が増えた場所は、「図書室」、「PC教室」、「厚生棟1F」である。これは、PC教室においてレポートや課題に取り組むことや、サークル活動に参加することが多くなったからかもしれない。なお、今回の調査では選択肢に「ラーニングコモンズ」を追加したが、残念ながら利用状況は低かった。

質問3)は、授業以外では何をしているのかを聞いたものである。例年と同様に、全体では春学期秋学期共に「友達との会話」が最も多く8割を超えた。次いで「携帯ゲーム機」「携帯でインターネット」が多かった。「サークル活動」が全体では、春学期13.8%、秋学期15.8%となり、昨年度の春学期34.8%、秋学期12.8%よりも低くなったが、春から秋にかけて微増している。また、PCで宿題も、春学期8.6%から秋学期12.3%と増加している。これは、質問2の居場所の変化と連動していると考えられる。

質問4)は、生活の中で楽しいと感じることを聞いたものである。全体としては、例年同様、「友達と会って話すこと」が最も多く8割を超えた。「サークル活動」の項目については、昨年度の調査では全体で春学期34.8%から秋学期25.6%と減少したのに対し、今年度は春学期13.8%、秋学期22.8%となっており、春から秋にかけて増加している。例年は春から秋にかけて減少していたのとは対照的である。今年度の新入生は、じっくりと時間をかけてサークルを選び、加入する傾向があったのかもしれない。「授業」に対しても昨年度は春学期全体で28.3%、秋学期20.5%と減少したが、今年度は全体で春学期19.0%、秋学期28.1%と増加した。この数値に関しても春学期から秋学期に増加しており、今年度の新入生は何事にも時間をかけて徐々に取り組んだという傾向が窺える。

質問5)は、生活の中で重要なことを聞いたものである。例年同様、全体では「授業」、「友達との付き合い」が高かった。「資格試験の勉強」も春学期、秋学期通して数値が高かった。「サークル活動」は昨年度全体で春学期30.4%、秋学期33.3%だったが、今年度は全体で春学期17.2%、秋学期21.1%と減少した。

質問6)は、生活の中で困っていることを聞いたものであるが、例年同様「授業が難しい」が最も多くなった。しかし、春学期全体63.8%から秋学期47.4%に減少している。時間の経過とともに大学の授業に順応している様子が見られる。ここで注意すべきことは、春学期から秋学期にかけて「人間関係」、「バイト」、「学費」の項目が増加していることである。大学での人間関係のトラブルについては、大学で実施しているカウンセリングを周知するなどの措置が必要であろう。バイトや学費については、経済的な援助を含めた学生サポートを考慮する必要があるかもしれない。

質問7)、8)は、友達がどの位できたか、1週間にどの位話をするかを尋ねたものである。

殆どの学生は本学に入学してから新たな友人ができており、10人以上の友達ができただけで全体で春学期36%、秋学期35%であった。この数値は昨年度よりは低い。

質問9)～12)は、日本人は留学生の友人ができたかどうか、留学生は日本人の友人ができたかどうかを聞いたものである。日本人学生の中で留学生の友達がいない割合は、春学期31%、秋学期29%と殆ど変化がない。昨年度は、春学期42%、秋学期43%であった。この結果は例年同様であり、国際交流の観点からは良い結果とは言えない。今後は、国際交流の研修旅行などを企画し、日本人学生と留学生が交流できる場を模索していきたい。

次に大学生活に関する質問（①宇都宮共和大学に入って良かったと思う ②大学生活に満足している ③大学生活は楽しい ④大学生活は役に立っている ⑤大学の施設・設備に満足している ⑥大学周辺の環境に満足している ⑦大学の授業に満足している

⑧大学の授業は楽しい ⑨大学の授業は役に立っている ⑩大学の授業は難しい ⑪教員の教え方や対応に満足している）の結果を示す。これらの質問については、5段階評定法（1 全然そう思わない、2 あまりそう思わない、3 どちらとも言えない、4 少しそう思う、5 とてもそう思う）により回答を得た。

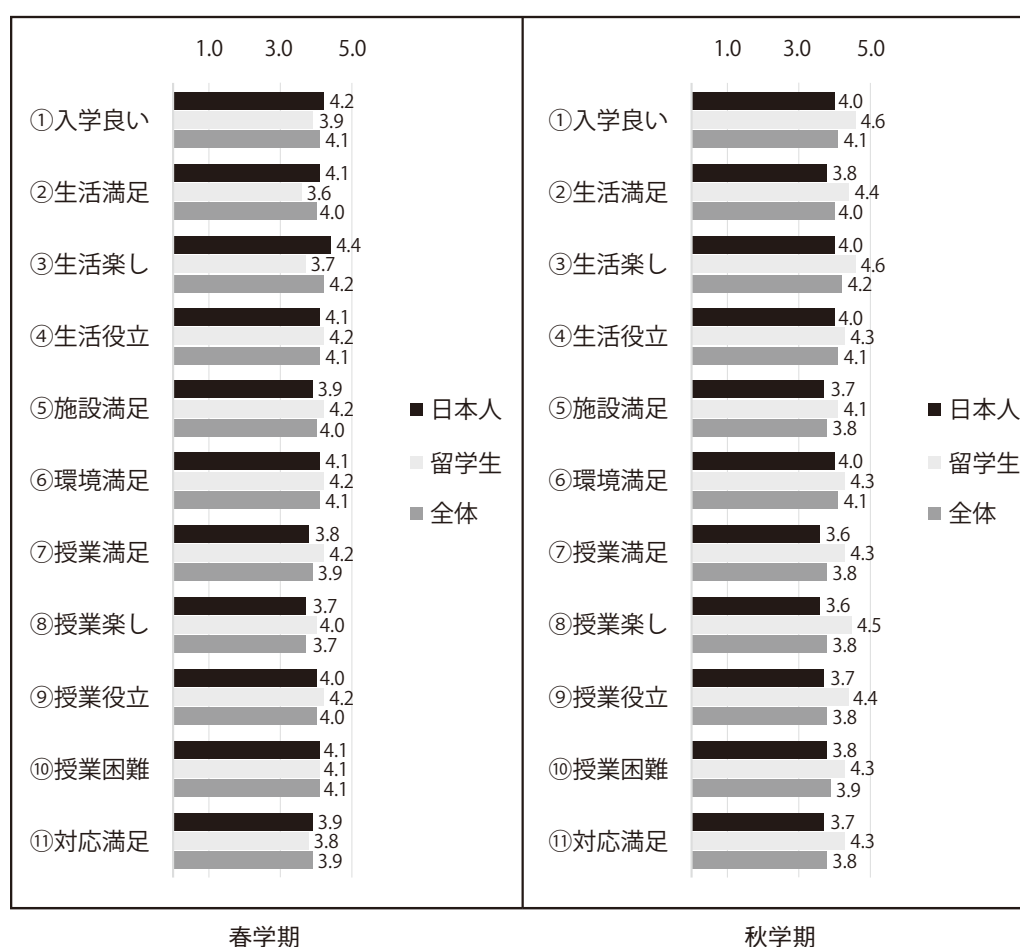


図12

まず、質問1の「入学して良かった」については、全体で春学期4.1、秋学期4.1で昨年度（春学期4.1、秋学期4.1）と同様になった。今年度も昨年度に引き続き、全体で4.0を超えたものの複数となった。一昨年度は全体で4.0を超えたものが1項目だけだったのに比べると、昨年度と今年度の学生の満足度は確実に向上していると思われる。

次に、大学生活、大学の施設、授業、教員の対応などについて、不満な点、意見等を回答してもらった結果を示す。なお、回答方法は自由記述によった。

【自由記述】

＜日本人学生：春学期＞

- ・大学の自販機に普通の水がない
- ・一部の先生がたまに一方的に進めてしまうところが少し不満に思った
- ・90分ただ話をしているだけの授業がある
- ・Wifiもう少し強くなりませんか？
- ・英語むずかしい

＜日本人学生：秋学期＞

- ・Wifiが使いにくい
- ・体育館を創設してほしい。Wifiを強くしてほしい。
- ・サッカーができるような運動場が欲しい。
- ・無線LANが弱い。
- ・体育館、料理ができる場所、サークルの部屋が欲しい。
- ・体育館、駐車場が欲しい。
- ・街中なので狭く、体育館など体を思いっきり動かせる場所がない。
- ・科目の幅をもっと広げて欲しい。
- ・グラウンド的な奴が欲しいです。体育館。
- ・不満はないがたまに先生たちから圧を感じる時がある。

以上のような意見が見られたが、この中ではWifiの強化は、宇都宮シティキャンパスは「街の駅」としての機能を持つことから早急に解決すべき課題と言える。また、授業の方法に関しては、昨今様々なところで取り上げられるアクティブラーニングを増やすなどの措置が必要かもしれない。

3.2.2 これからの勉強について

「これからの勉強について」は、10項目の質問（①自分の関心がある専門分野を集中的に勉強したい ②できるだけ様々な分野を広く勉強したい ③履修科目は、自分の興味関心で決めたい ④履修科目は、卒業要件を満たせば良い ⑤資格試験などに積極的に

取り組みたい ⑥大学院進学に向けて勉強したい ⑦授業の単位を一つでも多く取りたい ⑧出来るだけ良い成績で単位を取りたい ⑨積極的に大学の施設などを利用していきたい ⑩積極的に先生に指導を受けたい)を設置した。回答は、5段階評定法（1全然そう思わない、2あまりそう思わない、3どちらとも言えない、4少しそう思う、5とてもそう思う）によった。

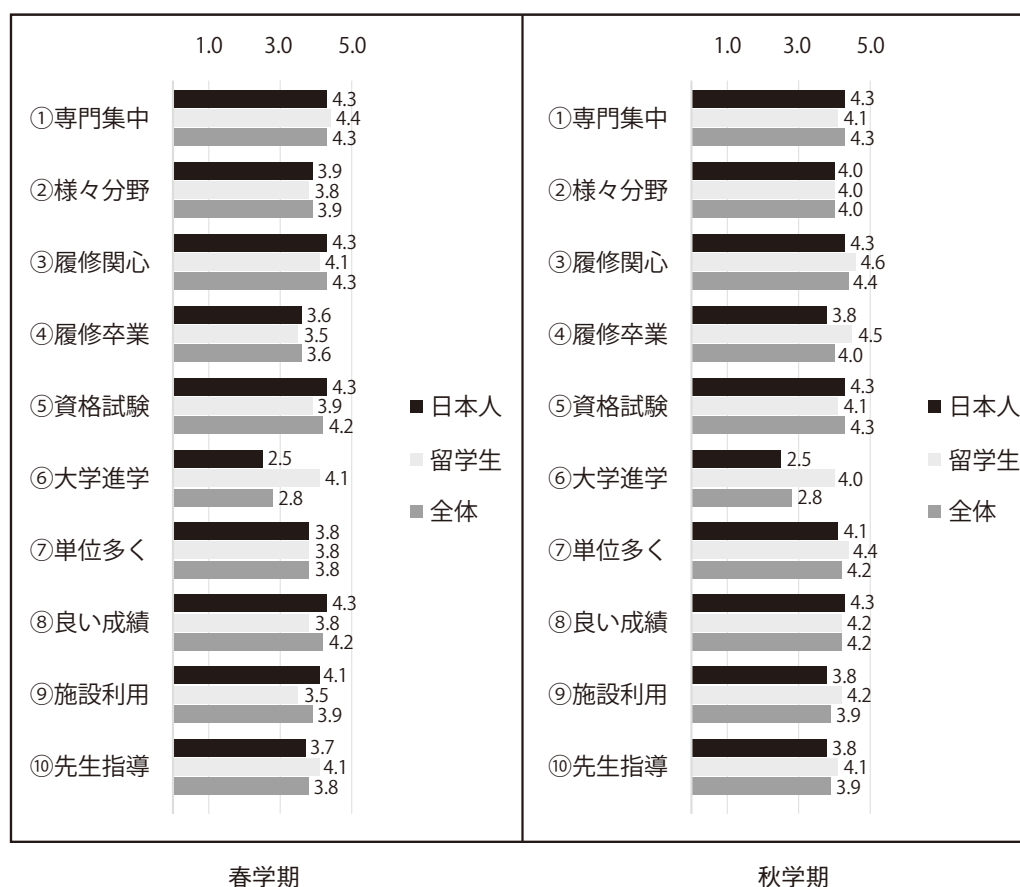


図13

まず、全体の結果を見ると、春学期は質問1、3、5、8、秋学期は質問1、2、3、4、5、7、8が4.0を超えた。春学期から秋学期にかけて、勉強についての意識が高まっていると考えられる。

3.2.3 基礎ゼミについて

基礎ゼミについては、基礎ゼミ全般について（春学期と秋学期共通項目）10の質問（①基礎ゼミは楽しかった ②基礎ゼミは役に立った ③基礎ゼミを通じて友人ができた ④基礎ゼミは少人数に分けられていて良かった ⑤基礎ゼミでのグループでの話し合いは楽しかった ⑥週間日誌を書くのは役に立った ⑦週間日誌を書くのは面倒くさかつ

た ⑧作文を書くのは役に立った ⑨作文を書くのは面倒くさかった ⑩週間日誌、作文を教員がチェックするのは良かった)を設置した。また、基礎ゼミのテキストと合同講義について春学期7項目(①テキストは良かった ②合同講義1「ノートテイキング」は良かった ③合同講義2「心の健康について」は良かった ④合同講義3「お金の使い方」は良かった ⑤合同講義4「キャンパス周辺ツアー」は良かった ⑥発表「キャンパス周辺のお気に入りの場所」は良かった ⑦合同講義5「レポートの書き方」は良かった)、秋学期7項目(①テキストは良かった ②ゼミの再編成は良かった ③発表「私の〇〇の場所」は良かった ④合同講義6「文献検索」は良かった ⑤合同講義7「オープンデータの使い方」は良かった ⑥自分の研究テーマに沿ってレジュメを作成し、発表したのは良かった ⑦発表「基礎ゼミで学んだこととこれからの研究テーマ」は良かった)を設置した。回答は、5段階評定法(1全然そう思わない、2あまりそう思わない、3どちらとも言えない、4少しそう思う、5とてもそう思う)によった。

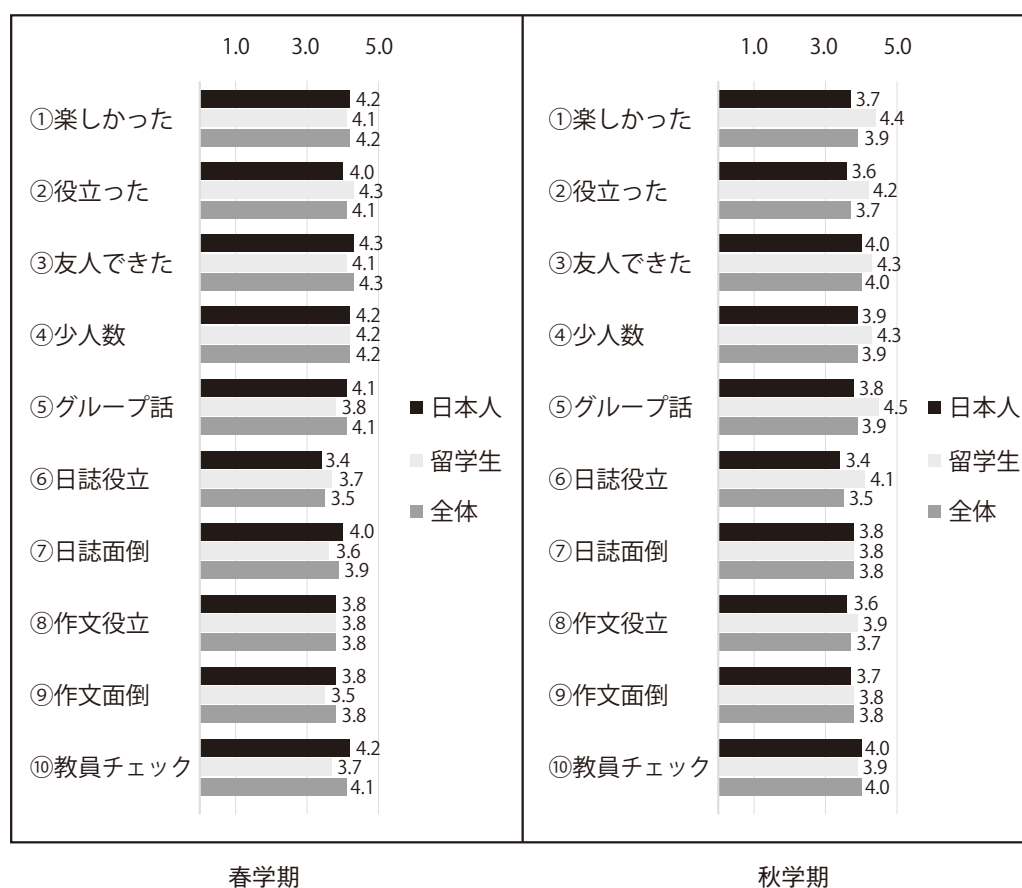


図14

まず、全体で4.0に満たなかったものは、春学期の⑥、⑦、⑧、⑨、秋学期の①、②、④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨であった。春学期よりも秋学期の方が評価が低くなっていることが今年度の特徴と言えよう。これは、テキストの後半が難しくなっているためと考えられる。今年度は、テキストをより丁寧に扱うために合同講義の回数を増やしたが、今後は課題内容を大幅に変更するなどの措置が必要かもしれない。

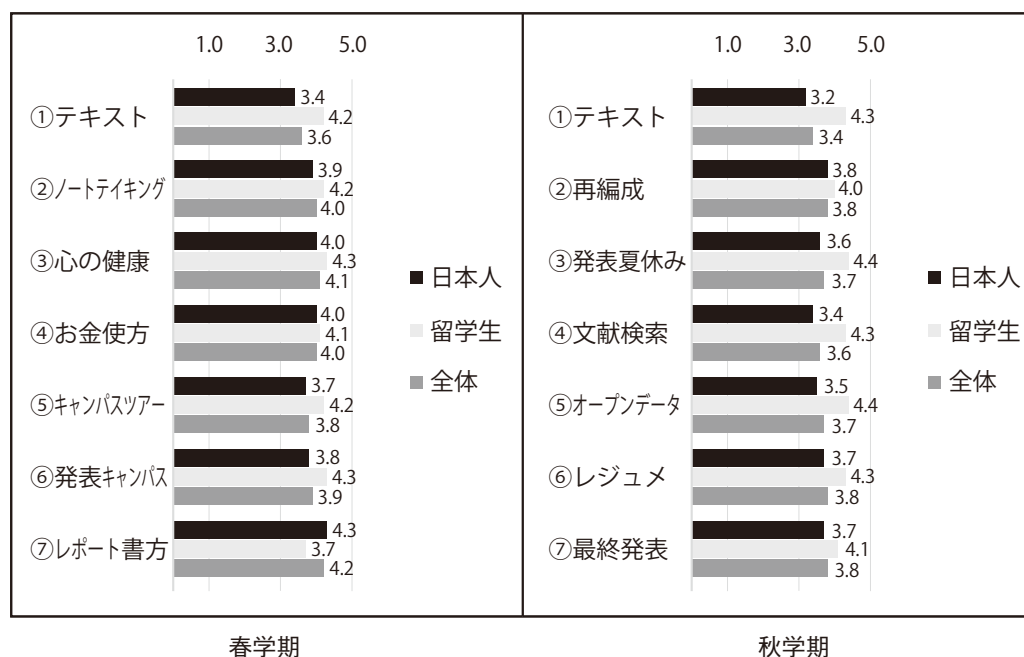


図15

まず、「テキスト」については、春学期全体3.6から秋学期全体3.4に減少した。これは、図14でも述べたが、テキストの後半が研究課題に取り組む内容となっており、前半よりも困難度が高い。実際の授業では、グループ活動を個人活動に変更したり、課題の量を減らしてたりしているが、今後は今まで以上にタスクに取り組むやすくする措置が必要と考えられる。合同講義においては、春学期の「ノートテイキング」、「心の健康」、「お金の使い方」、「レポートの書き方」が4.0を超え高い評価となった。今年度は、テキストをより深く理解するためにその内容に合わせた同講義を行ったが、一部については効果があったのかもしれない。

課題発表については、図15に示すような結果となった。昨年同様に課題については全体で4.0を超えたものはなかった。課題という性質上、学生からの高い評価は期待できないが、口頭発表能力の向上のためにも今後も継続していきたい。また、課題発表においては単に他人の発表を聞くだけでなく、個々の学生を採点するという形式を学期途中から採用した。それまでは、発表を聞かずに居眠りをしたり、内職を行い学生も見られたが、

評価シートを配布するようになってからは、より集中して発表を聞くようになったと感じられた。来年度以降も他人の発表を評価するという形式は継続していきたい。

次に、基礎ゼミについての要望や意見を示す。なお、回答方法は自由記述によった。

【コミュニケーション講座について】

＜日本人学生：春学期＞

- ・1年次で2年次への下準備と考えれば十分だと感じた。

4 まとめと今後の課題

昨年度の基礎ゼミでは、大学の行事が重なったためドリルの回数が減少し、リメディアル教育としてのドリル学習が断続的な実施となってしまった。そのため、平成30年度の基礎ゼミでは補助回を合同講義に充て、テキストの内容をより深く理解できるようにシラバスを編成した。補助回は、基礎ゼミ担当の教員の協力が必要であるため毎年同じ内容にすることは困難であるが、できる限りテキストの内容に沿った内容にしていきたい。また、今年度の基礎ゼミでは、全体発表において発表評価シートを採用し、他人の発表を集中して聞くための工夫を行った。評価シートには、一定の効果があったと思われる。

基礎ゼミ終了後、担当教員ミーティングを設け、出された意見を以下に示す。

- ・テキスト後半が難しいので、ワークの仕方を変えた方が良い。
- ・テキストの後半は、ゆっくり進めた方が良い。
- ・テキスト第3章は、最終回でもう一度扱っても良い。
- ・文献検索のやり方、研究テーマの設定を教えてあげた方が良い。
- ・日誌を毎日書くのは学生にとってつらい。
- ・日誌ではなく、作文を多くした方が良いのではないか。
- ・毎日ではなく、2週間の中で一つの出来事についてレポートさせてはどうか。
- ・新聞記事や動画を見て、何かを書かせてはどうか。
- ・担当教員以外の外部の講師を積極的に活用してはどうか。
- ・漢字学習をする場合は、確認テストが必要。

以上の意見が出されたが、大別すると（1）テキストの扱い、（2）週間日誌の内容、（3）補助回の工夫である。（1）に関しては、学生に対する意識調査でも数値として表れているので、改善する必要がある。タスクの難易度を下げたり、タスク自体を削除したりする必要がある。（2）については、これまでの週間日誌は「欠席・遅刻した講義」、「その日の出来事」、「雑感・質問」、「作文」からなっていたが、来年度は内容を見直したいと考えている。学生が取り組んで良かったと思える内容を模索していきたい。（3）については、来年度は担当教員が大幅に入れ替わるため多少の内容変更が考えられるが、こ

れまで通り学生のアカデミックスキル向上のため努力していきたい。

本学において初年次教育が始まってから節目の10年を迎えた。開講時から試行錯誤しながらより良い講座を目指してきたが、当初よりアカデミックな内容に発展していると思われる。11年目に突入する来年度も内容を充実させ、新入生の学力向上に寄与するべく講座にしていきたいと考えている。

【参考文献】

- 川廷宗之・川野辺裕幸・岩井洋編（2011）『プレステップ基礎ゼミ』弘文堂
- 松田勇一（2010）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題－平成21年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』第11号
- 松田勇一（2011）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(2)－平成22年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』第12号
- 松田勇一（2012）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(3)－平成23年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』第13号
- 松田勇一（2013）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(4)－平成24年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』第14号
- 松田勇一（2014）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(5)－平成25年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』第15号
- 松田勇一（2015）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(6)－平成26年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』第16号
- 松田勇一（2016）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(7)－平成27年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』第17号
- 松田勇一（2017）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(8)－平成28年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』第18号
- 松田勇一（2018）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(9)－平成29年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』第19号

謝辞：平成30年度の基礎ゼミでは、本学の田部井信芳教授、石井誠専任講師、今喜史専任講師、小浜駿専任講師、西山弘泰専任講師には、円滑な授業運営・クラス活動のためご協力をいただき、また毎回の教師ミーティングの際にはご助言をいただきました。ここに心から感謝申し上げます。